

浸水対策施設の検討

1. 市民会館周辺の浸水状況について

市民会館周辺における過去の水害として、昭和57年の台風第18号では境川の氾濫により大きな浸水被害が発生しましたが、その後の河川改修や遊水地整備が進んだことにより状況は改善しています。その一方で、道路冠水など雨水を排水できないことにより発生する浸水(内水浸水)はいまだに多く発生しています。



写真-1
 (令和元年12月2日14:20撮影)

近年の内水浸水としては、降雨量では平成26年の台風第18号で記録した雨量77mm/時(御所見)と比較すると少ない雨量ですが、それでも相当の浸水を記録するなど、内水浸水に対しても弱い地域です。

表-1 市民会館周辺における近年の浸水状況

降雨事象	浸水深	降雨量(藤沢土木)		河川水位	
		時間最大	総雨量	大清水橋	境川橋
H26. 10. 6 台風第18号	約70cm	50mm/時 (8:00~9:00)	263mm	5.62m 氾濫危険水位22cm超	6.42m 氾濫危険水位まで23cm
R1. 12. 2 大雨警報	約50cm	45mm/時 (13:10~14:10)	108mm	2.40m	4.09m

2. 総合的な内水浸水対策計画(雨水管理総合計画)策定の目的と状況

本市では、平成23年に定めた「湘南ふじさわ下水道ビジョン」の基本方針の一つである『雨に強いまちづくりを進めます』に基づき、床上浸水被害の解消を目標として貯留管などの整備を進めてきました。しかし、前述のとおりいまだに多くの浸水被害が発生している状況であるため、市内一円の浸水被害の軽減に向けて、「藤沢市雨水管理総合計画」の策定を進めており、本年2月に表明した「藤沢市気候非常事態宣言」の取組にも合致した目的になっています。策定予定については、当初、令和2年度に完了する予定でしたが、気候変動に伴う国からの提言等を受け作業を延期しており、令和3年度に国の動向を踏まえ策定が完了でき

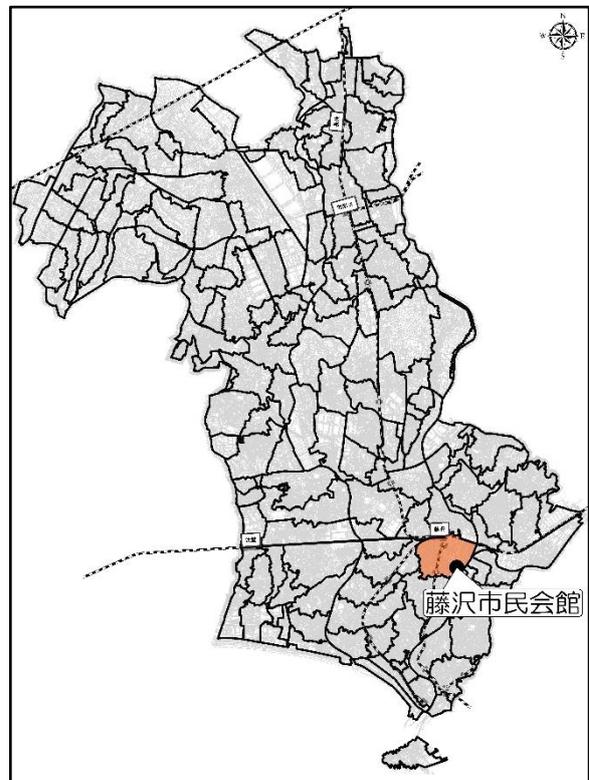


図-1 鶴沼東部ブロック
 (市民会館含む藤沢駅南口)
 (1位/175ブロック)

る予定です。

現在までの取組状況としては、これまでの対策検討単位であった103排水区を細分化した175ブロックごとに浸水シミュレーションなどにより定量的に浸水リスクを評価し順位を定めました。その結果、市内で最も都市機能が集積する鶴沼東部ブロック（市民会館を含む藤沢駅南口エリア）が浸水リスク1位であることが判明しました。こういった順位の高いブロックから対策を進めていく必要があることから、雨水管理総合計画の策定に先行して鶴沼東部ブロックについて対策方法等の概要を検討しました（図-1）。

3. 浸水対策施設の概要と規模

浸水対策施設の概要は、雨水ポンプ場と貯留施設などで構成されており、このうち、雨水ポンプ場は敷地面積として4,000平方メートル（将来の建て替え用地を含め8,000平方メートル）程度が必要と想定しています（図-2、図-3）。

なお、具体的な施設規模を決めるのは河川管理者との放流協議後になる見込みです。

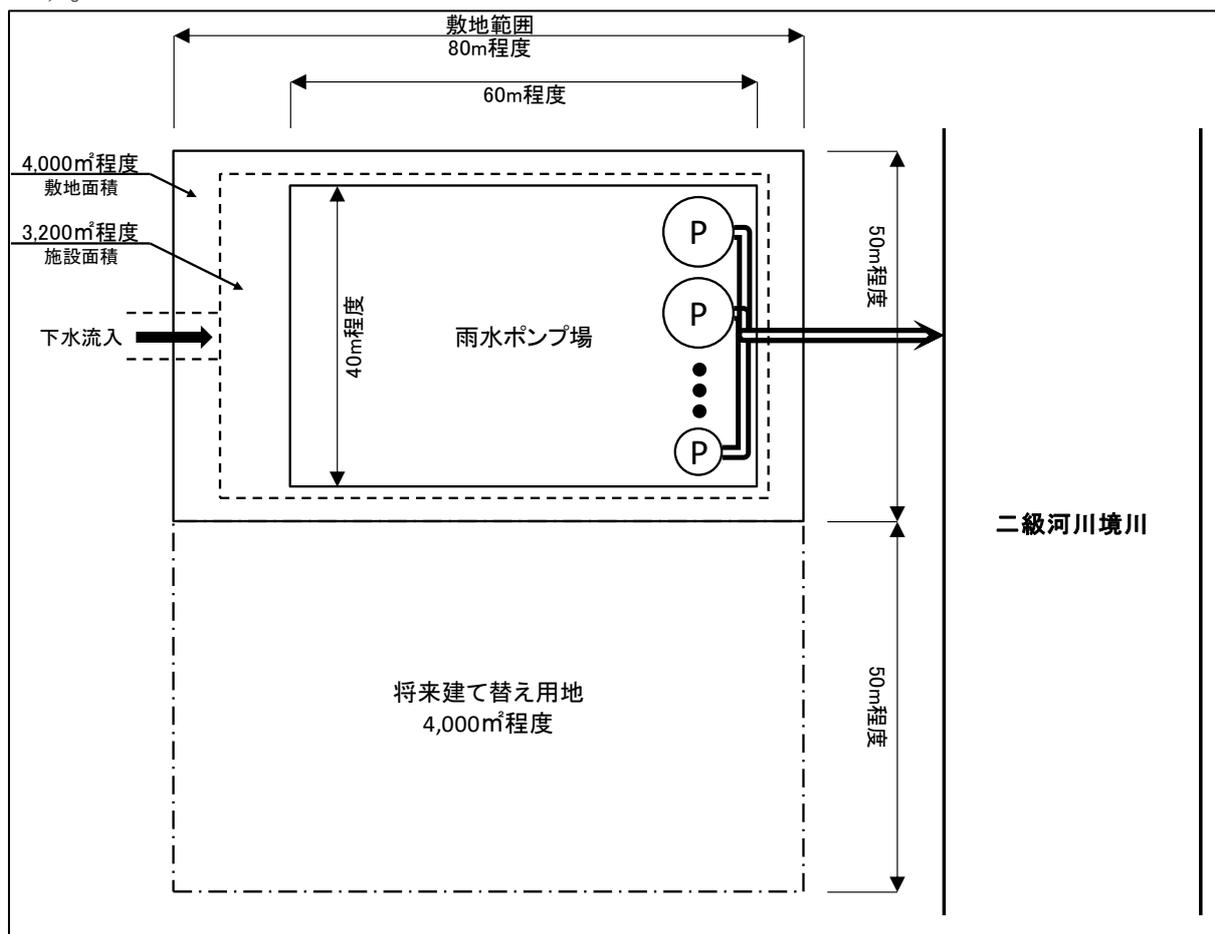
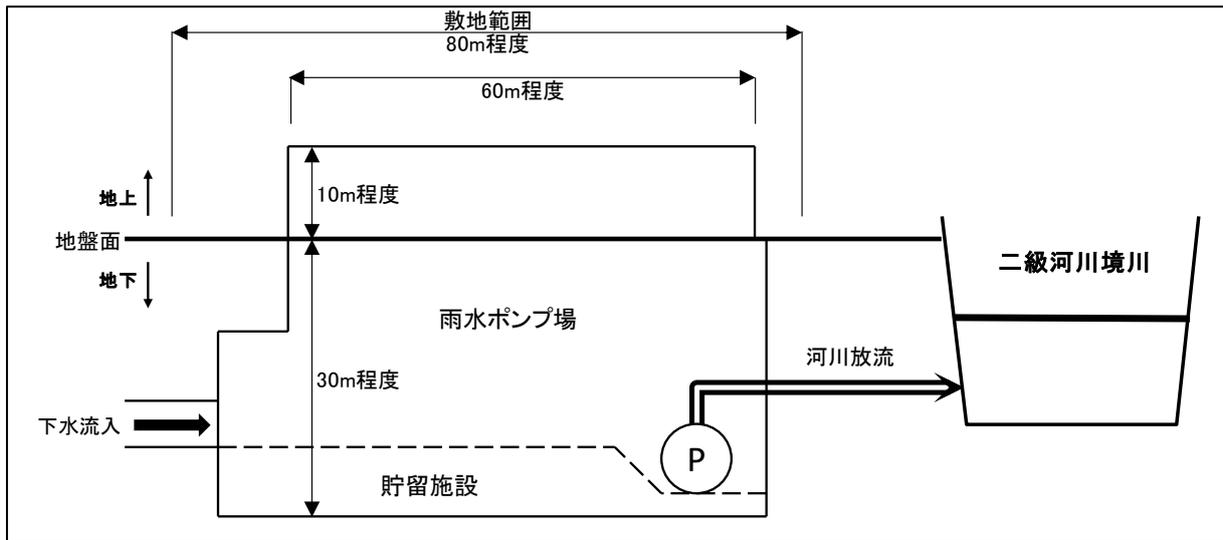


図-2 雨水ポンプ場模式図（平面）



図－3 雨水ポンプ場模式図（断面）

4. 事業用地の選定

雨水ポンプ場や貯留施設の整備には相当な広さの用地確保が必要ですが、都市機能が集積する本ブロックの周辺では新たな用地確保が困難な状況です。

市民会館再整備が検討されている「生活・文化拠点」エリアについては、河川に近いことと広さも十分であることから、浸水対策施設の早期整備を具体化するための最適地と考えられます。

5. 浸水対策施設の整備に向けたスケジュール

今後のスケジュールについては次のとおり想定しています（表－2）。

表－2 今後のスケジュール

事業名		R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
下水道事業	貯留施設	基本検討	基本設計	詳細設計 試掘工事	設計 精査	工事施工 (貯留管)		工事施工 (導水管)		供用開始		
	雨水ポンプ場			放流協議等	詳細設計 河川協議	運転 協議	工事施工					
	雨水管理 総合計画	策定 完了	第一期計画実施				第二期計画実施					
藤沢市民会館等 再整備事業		基本 構想	基本 計画	設計及び新築工事 (既存建物解体工事を含む)				供用開始				

※下水道事業のスケジュールは、委託業務による検討や実施設計を経て作成した確定的なものではなく、あくまで経験や実績を基に作成した流動的かつ不確定な工程です。

以上